

提言に対する各課の反応に 温度差がありすぎる

「外の視点」から「行政」への投げかけ―

限界集落になってしまいう前に何らかの対策を立てる必要があるのでは



和田邦重さん（田代地区）

町の存立の一つの基本は人口と思う。いわゆる山間地域あるいは離島とかでは「限界集落」ということが最近よく言われている。事実、本町でもそれに類似するような集落が見受けられるようになったし、少しずつ増えていくんじゃないかと思う。私が住んでいる集落も限界集落ではないが、一人暮らしの世帯は増えている。このままいくと将来限界集落に近づいていくと危惧している。この辺の対策をいかに考えているのか。当然多様な取り組みを要し、即効性のあるものはないが、全国の中山間地域で有効な対策を打ち出しているようなケースがあれば、限界集落への対応ということで大きな参考になるのではないかと。このままいけば、いずれ必ず直面する大きな問題であり、今後どう対応していくか行政として考えていくべきではないか。

女性の声を反映させたいのなら、自分たちから出向いていく配慮も必要



森岡朱雅子さん（徳山地区）

「女性委員の拡大」に関連して、女性の声を行政に反映させたいのであれば、子どもを連れのお母さんが集まる場所へ役場が出向いていくというように、自分たちが動いて積極的に情報収集するという形もとっていくべき。特に女性は家から動けない場合も多く、時間・場所を指定されても、必ずしも行ける人ばかりではないと思う。あと「若者定住住宅」について、本当にこの町に定住してもらいたいと思うのなら、安い賃貸住宅に住んで、その間にお金を貯めて、安く土地を買って住宅を建てて定住するというような、そこまで踏み込んだ対策をとっても良いのではないかと。そこまでやらないと、若者定住住宅をただ利用して終わってしまうことになってしまうのでは。

提言に対する各課の対応に差がありすぎ。本当に真剣に考えているのか



相藤令治さん（藤川地区）

私はこの資料（提言に対する各課の対応）をもらったとき、本当にこれで公表できるのか。こんな各課対応がバラバラの状態なのに、それぞれの意識に高低差がありすぎるのに、公表して町民が納得してくれるのかどうか大きな疑問を感じた。情報の開示という点で、確かに広報紙では紙面に限りがある。私も、本日の委員会前に町ホームページを確認してきた。今まで開催した会議録などが掲載されているのが確認でき、情報の開示という点では改善が感じられた。しかしホームページも大切だが、いろいろなメディアを利用して、町民に啓蒙していかなくては、この行政改革は成功しないのではないかと。最初に言ったように、こういう各課の対応がバラバラな状況では、本当に職員が「行政改革」を真剣に考えているのか、大きな疑問を感じている。

行革推進委の取り組みについて、広報が全然足りていないのではないかと



太田侑孝さん（梅高地区）

広報紙に行革の記事が掲載された状況を調べると、平成18年12月号に1回、あと平成19年9月号に1回掲載されていた。この推進委員会が立ち上がったことも、提言を町長に提出したことすらも全然記事になっていない。やる気があるのかどうかということ。4月号に予算記事が特集されていたが、提言に触れた部分は一切なかった。ここで提言に触れなくては、この委員会が全然意味を成さないではないか。だから、広報紙の記事の組み立て方がおかしいと思う。広報の問題だけではなく、各課の提言に対する考え方が甘い。課によって記載があったりなかったり。1年かけてまとめた提言書がどこにも活かされていない。ホームページを見てくれれば分かるなんてチャンチャラおかしい。そんなの単なる言い逃れ。実に情けない。次の予算編成では「行革推進委からの提言を受けてまとめた」と明示してもらわなければ。

提言に対する各課の対応
（抜粋して掲載しています）

提言1【職員の意識改革】に対する各課の対応（抜粋）

- 職員に対し住民のための行革という意識啓蒙に努める（総務課）
- 町民の参加が重要であり参加しやすい体制づくりを心がける（健康増進課）
- 生活道路など、町と地元と作業区分を明確にして維持管理に努める（建設課）
- パブリックコメントを活用し環境に配慮した使い勝手の良い新庁舎建設を進める（管理課）

提言2【目的と手段の明確化】に対する各課の対応（抜粋）

- 総合計画を達成するための体制づくりを行うのが行革である（企画環境課）
- ムダのない行政、顔の見える行政の推進を図っていく（保健福祉課）
- 将来的には生涯学習の独立・自立した活動ができるよう進めたい（生涯学習課）
- 目標達成のための事業実施であるという職員意識の啓蒙に引き続き務める（総務課）
- 自ら考えて目的と手段の関係を明確化する（企画観光課）

提言4【親しみやすい役場】に対する各課の対応（抜粋）

- 接客マナー向上のため来庁者へのアンケート実施なども検討（行革推進室）
- 公務員はサービス業。接客態度や言葉づかいなど職員の資質向上を図る（企画観光課）
- 普段から接客対応には細かな配慮を心がけるように努めている（住民課）
- 学校だよりの発信など、地域に開かれた「学校」の推進を図っている（教育総務課）
- 職員のマナーアップ、情報の共有化・透明性の確保（企画環境課）

提言6【産業文化祭・ふるさと祭り】に対する各課の対応（抜粋）

- 運営体制について引き続き検討する（総務課）
- 実行委員会組織の再編も含め総務課と協議していく（企画観光課）
- 健康まつりは町の事業と考えられ、実施主体を町に変更する（健康増進課）
- 検討課題として健康まつりは産業文化祭の一環ではなく、食育推進事業やファミリーマラソンと合わせた独自の事業として実施したい（保健福祉課）